



咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、アデノウイルス(Ad)の感染により引き起こされる疾患で、主な症状は発熱、咽頭炎、結膜炎等です。プール熱とも呼ばれています。夏季に流行のピークが見られますが、年間を通して患者が発生しており、近年は冬にも小流行が見られます。

感染症発生動向調査による埼玉県の患者報告数は、2017年では5月ごろから患者報告数が徐々に増え6月から7月にかけて報告数が多い状況が続き、また、冬は例年よりも早い10月半ばから患者報告数が増加しました。2018年は過去4年間と同様に、8月第2週時点で患者報告数のピークが過ぎ、減少し始めているところです。(<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/ryuukou.html>)

2017年1月から2018年6月までに小児科病原体定点で採取され、埼玉県衛生研究所に搬入された咽頭結膜熱の検体は97検体(2017年68検体、2018年1~6月29検体)で、年齢階級別では1歳児の検体が最も多く搬入されました(表1)。そのうち78検体からAdが検出され、検出されたAdの遺伝子型は、2型(Ad2)が37件と最も多く、続いてAd3が19件、Ad1が9件でした。

表1 咽頭結膜熱 年齢階級別検体搬入数及びアデノウイルス検出状況 (埼玉県衛生研究所2017年1月~2018年6月)

	1歳未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6~10歳	11歳以上	計
Ad1		4		3	2				9
Ad2	3	22	4	4	2	1	1		37
Ad3			6	4	4	3	2		19
Ad4						1	2		3
Ad5		3	1						4
Ad54								4	4
Ad64								1	1
Ad-NT				1					1
検体数	4	31	13	15	12	9	6	7	97

2017年は、Ad2は主に4月~8月にかけて検出され、Ad3は4月~12月にかけて検出されました。2018年はAd2が15件、Ad1が6件、Ad5が1件検出され、Ad3は検出されていません(図1)。全国的にはAd3は検出されています。(国立感染症研究所ホームページ

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1535-iasrgv-adeno.html>)

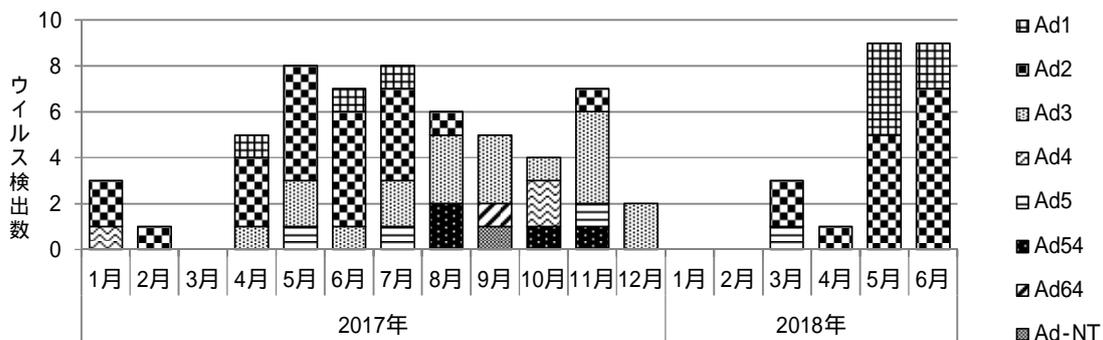


図1 咽頭結膜熱検体からのアデノウイルス検出状況(埼玉県衛生研究所2017年1月~2018年6月)

定点医療機関の先生方には、流行ウイルスの把握のため、引き続き検体採取にご協力をお願いいたします。